

中期学校経営方針

横浜市立 南神大寺小学校

平成30年度版

中期学校経営方針

(平成28～30年度)

学校概要

創立 45 周年	学校長 原田 眞由美	副校長 今野 裕子	学期 2 学期制	児童・生徒数 204 人
学級数 一般級: 7 個別支援級: 3		主な関係校: 松本中学校 三ツ沢小学校		

学校教育目標

- 【みつめ みがきあい みらいをひらく 南神の子】
 【知】 自ら問題を見つけ、自ら追及し解決していく子どもを育てます。
 【徳】 自分も友達も大切にできる心のあたたかい子どもを育てます。
 【体】 心と体を鍛え、自分らしさを発揮できる子どもを育てます。
 【公】 積極的に社会とかかわり、社会の役に立とうと行動する子どもを育てます。
 【開】 自然と向き合い、様々な人とのコミュニケーションを通して、共に生きる子どもを育てます。

学校の特色

- 子どもも教員も互いの顔と名前が分かり、アットホームな雰囲気がある。縦割り活動による異学年交流が盛んである。
- 「つつける南神」「パワフル南神」「わかる・できる南神」をキーワードにして、学力・体力向上に取り組んでいる。
- 授業づくりに熱心な職員が多く、学び合う姿勢が生まれている。
- 保護者・地域の方々は、読み聞かせボランティア、あいさつ活動、学援隊などにも協力的である。
- コミュニケーション力を高め、子ども一人ひとりの良さを認め合う心を育てたい。
- 学習状況調査の結果から、思考力・判断力・表現力に課題が見られる。

学校経営中期取組目標

- 一人ひとりの子どもを大切にしたい明るく活気ある学校づくりを目指します。
- ・「授業が楽しい」「自分の考えを伝え、友達の考えも聞きたい」と思える授業づくりを推進し、子どもの表現を大切に学力向上を図ります。
- ・一人ひとりにとって、安心して、自信をもって、生き生きと生活できる場となるようにします。
- ・健康な心身をつくるための生活習慣を形成していきます。
- ・小規模のよさを生かし、全校児童にきめ細やかな対応ができる学校にします。
- ・小中一貫教育推進ブロックや家庭・地域と連携を図り、信頼される学校づくりを進めます。

小中一貫教育の取組

松本中学校 ブロック : 松本中学校 三ツ沢小学校

9年間で育てる子ども像 「自分の夢を語る事ができる子ども」を育てます。

自校の具体的取組

- ◆中学校への接続を意識して、子ども一人ひとりに関わります。
- ◆小中ブロックの研修会を通して、9年間で育てたい子ども像について意見交換をし、共通理解を図ります。
- ◆人権に配慮した授業実践に取り組めます。
- ◆松本中学校合唱コンクールや部活動体験に6年生が進んで参加し、中学生との交流を深めます。

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	基礎基本の定着を図り、言語活動を位置付けた自分の考えを表現する学習を充実させるとともに、自己肯定感をもつことができるようにする。	①課題を自分事として捉え、意欲的に学習に取り組めるような授業づくりをする。②単元毎の学習計画を立てたり、1時間の授業の流れを提示したりして、見通しをもたせゴールの明確な授業を行い、「分かる・できる授業」につなげる。③多様な考えを共有し、認め合い、共に学ぶ楽しさを味わわせ、言語活動を大切に実践をする。
豊かな心	よりよい人間関係を築くために「道徳の時間」や日常の指導を大切に、子どもの自尊感情を育てるとともに、自分だけでなく、友達も大切にできる気持ちを育てる。	①全学級、道徳の授業公開を年1回以上実施する。②高学年を中心に、朝の挨拶活動を活発にする。③たてわり活動など異学年同士の活動を充実させて、友達への思いやりや優しい心を育てていく。④人権週間の取組を充実させ、確かな人権感覚・意識の育成をする。
健やかな体	子どもの体育・健康面の姿から課題を明確にし、体育科・保健体育科の授業を中心にしながら、教育活動全体を通して健やかな体の育成を目指す。	①体育科・保健体育科の授業改善を図る。②体力テストの結果や実態把握から、体力向上1校1実践運動として、縄跳び運動を進める。③体力テストの結果を保護者と共有するなどして、体力の向上、生活習慣の改善を図る。
児童生徒指導	いじめのない豊かな人間関係づくりのために、専任教諭を軸に担任や養護教諭と連携を図りながら情報を共有し、全教職員で子どもに関わり育てる。	①「スタンダード」を全職員で共有して指導にあたる。②YPによる学級の様子や年2回のアンケート結果や児童の変化などを捉えるようにして、児童理解と児童対応に取り組み、いじめを生まない風土づくりを図る。③職員会議内に児童理解の場を設け、定期的に児童の状況について共通理解をする。
特別支援教育	特別な支援を必要とする児童の実態を把握し、他機関と連携をし適切な支援の内容・方法を検討するなど特性やニーズに応じた指導を目指す。	①支援を必要とする児童について、全職員で共通理解する場を定期的に設けることや、東部療育センターのコンサルテーションを受ける等、個に合った支援のあり方を学び、実践する。②子どもの困り感に寄り添い、共に考え、一人ひとりを大切に指導を実践する。
本校独自小規模校の良さ	全校で取り組む活動を通して、一人ひとりの良さを認め合い、互いに高め合う気持ちを育てる。	①「たてわり活動」「全校音楽会」「卒業式」等で、活躍の場や自信につながる取組をし、自己肯定感を高める。②教科や生活の場面を通して、異学年交流を実践し、相手意識をもった活動や友達の良さを認め合える活動に取り組む。
学校運営協議会	松本中ブロックの3校で合同の学校運営協議会を設置することで、学校と地域の情報共有を積極的に行い、地域と一体となった協力的体制を構築する。	①学校と地域の情報共有を積極的に行う。②地域での子どもたちの実態を共有し、本校の目指している教育の良さや、課題について助言をいただく。
いじめへの対応	子ども一人ひとりが受け入れられていると実感できる受容的な環境をつくる。また、全ての児童の「共育を受ける権利」を保障するための支援を確実に実施する。	①「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を授業や学校行事の場面で活用する。②校長をリーダーに、日常から全職員で児童の様子を把握し、担任、専任、カウンセラー等の支援を進める。
人材育成・組織運営	教務部を中心として職員の良さを生かした組織づくりとメンターチームの自主的な研修を支え、授業力・指導力向上に努める。	①教務部を軸として、ミドルリーダーの育成に力を入れる。②メンター研の自主的な研修を充実させるとともに、各教職員がそれぞれの立場から、アドバイスや指導助言する意識を持ち、学校全体で人材育成に取り組む。③不祥事防止研修、児童理解、教科指導研修、保護者対応研修など、継続的な研修を進める。